

こどもの森

試行錯誤の日々～いろんな変化を楽しみながら

オンライン入学式が始まった2020年度。6月に登校が再開するまでは、オンライン学習が続きまして。中学部で大切にしている学びの一つ、『ワールドオリエンテーション』の昨年度の前期のテーマは「農」。オンライン学習中はお家で苗を育て、登校が始まってからは学校の近くにある畑を借りて、野菜づくりをしました。ほとんどの子どもたちが農作業は初めての中、畝を耕し、土の感触や香りやとれたての野菜の味を五感で感じる時間。手を動かしながら日常の食や農業について見直しました。

後期のテーマは「沖縄・政治」でした。研修旅行で沖縄を訪れる予定をたて、基地問題や歴史など沖縄を通して政治について見つめる学習を進めました。また市議員をされていた方や、沖縄に詳しい卒業生からお話を聞き、出発に備えました。しかし新型コロナの感染拡大を受け、延期、そして中止となりました。その結果にいたるまで、スタッフ会議、保護者の意見交換会、中学生との学習の中などで、たくさん話し合いをしました。中学生からは「世の中にはいろんな意見があるけれど、こどもの森では話し合っ、一人ひとりが選んで決めていけるといいんじゃないかな」という言葉がありました。自分たちが何を大切にし、何をを選び、どう生きていくのか。あらためてスタッフとしても問われたように感じています。

3学期の最後に行われた中学3年生の卒業プロジェクト発表会では、3年生が取り組んできたこと、そして自分を見つめ、気づいたことを伝えました。自分の軸を持ちな

がら、自然体で自分自身を表現する3年生が頼もしく、そんな姿を見ていると“学ぶと生きるをデザインする”は、その人の心の中から湧きあがってくる好きなことやワクワクが出发点になっていると気づきました。

こどもの森全体では、昼休みや放課後の過ごし方と感染防止対策を考えるコロナ対策委員会ができたり、学校でにわとりを飼いたい！という声からにわとりグループが生まれ、育てるための準備を進めています。卒業を祝う会は、どのようにすれば密を避けつつお祝いの気持ちを卒業生に目一杯届けられるか、子どもたち自身で工夫を重ねました。これまでと異なることが多い一年でしたが、子どもたちもスタッフも試行錯誤をしながら進んだ日々でした。

2021年度は中学部にとって7年目の春。1年生7名、2年生1名の新メンバーをむかえ、19名でクラスがスタートします。(小学部と合わせると65名！)。中学部が始まって以来の人数で、校舎の使い方も学びのスタイルも変化がおこりそうな一年。子どもたちと一緒に新しい経験や探究を重ねながら、充実した学びをつくっていかれたらと思っています。(高原)



自分のペースで考える

保護者より

3月にこどもの森を卒業した息子が、高校への進学のため、大阪から栃木に旅立ちました。こどもの森には小学4年から入学させていただき、一度中学2年で卒業しましたが、中学3年の10月に再び戻り、中学部卒業をこどもの森でさせていただきました。彼に、「なぜこどもの森に戻ろうと思ったん？」と聞くと「自分のペースで考えられるから」という答え。社会で生きる上で、あまりに当たり前の答えですが、「自ら考え、自ら決め、自ら実行する」という、こどもの森で一番大切にしていることが、今の義務教育の中では不足していることを、彼の言葉を通じて感じました。そして、彼はこどもの森に通いながら、小学部、中学部の仲間たちやスタッフとのやりとりの中から、「自ら考え、自ら決め、自ら実行する」ということを学んできたのだと思いました。「いかに親として接するのか？」私の答えは、「自らやりたいという発露まで待つこと。そしてそのやりたいを邪魔しないこと。そのまま受け入れること」。これからも彼の選択を応援していきたいと思っています。(井上)



トピック!

オンラインヴィレッジの可能性

コロナ禍で多くの活動が制限される中、「地球市民を育み、ともに創るオンラインコミュニティ」として立ち上げたコクレオ・オンラインヴィレッジ。ここでは、私たちの意識や活動を多方向に拡散しながら循環させ、円(サークル)を成すようなコミュニティづくりを目指しています。そのため、ヴィレッジは「物事の見方が変わる学びの場」、「民主的で持続可能な社会づくりを実践する場」、「やりたい人がやりたいことを実現するために応援し合う場」、「誰もが対等な関係で、のびやかに、軽やかに、あなたのままだにいられる安心安全な場」、「あたたかくよいものが発酵していく場」でありたいと願っています。



オンラインを通してコミュニティを自由に選択できる今の時代、オンラインヴィレッジは思いや価値観を共有できる人々の集いの場として可能性を感じています。Facebookグループを活動基盤としながらリアルな場とも連携し、「ともに創る」を実践していきますので、興味のある方は是非ともご参加ください。(川越)

Facebookグループを活動基盤としながらリアルな場とも連携し、「ともに創る」を実践していきますので、興味のある方は是非ともご参加ください。(川越)



ミライの森

コクレオの森が、ともに創りたいもの

NPO法人名が箕面こどもの森学園からコクレオの森になるまでの間、自分たちが何のためにどこにどう向かえばいいのかわからない時期が、2～3年ありました。それを明らかにするために始まったのが、「ビジョンミーティング」や「自分たちをみつめる会」。長いときには、2日間にわたってやったことも。そんな時間を積み重ねた結果、「4つの森」という事業の捉え方や、ともに持続可能なミライを創る「コクレオの森」という考え方にたどり着き、コクレオの森のエッセンスやガイドラインの基礎となる共通認識をみんなで持つようになっていきました。こうした長い時間をかけて、私たちは、ビジョンを共有化し、そのビジョンを具体化させ、4つの森の事業を行い、様々な発信をするようになっていきました。



その発信は、周囲に届いていき、他団体の方から、ビジョンミーティングのファシリテーターの依頼が時折来るようになりました。今まで依頼いただいた団体は、自然食関係の生活共同組合(複数)、商工会議所の女性部、私立幼稚園、公立中学校などです。まずは、ご依頼いただいた方の想いをヒアリングし、その想いを核としながらも、参加者の想いを出し合い、出てきたものを見つめ直したり、整理したりしながら、ビジョンの共有とその具体化のアイデアをまとめていっています。

それぞれの事業内容を詳しく知らなくても、「持続可能な社会を創りたい」という想いや、「ビジョンを具体化させたい」という想いは、どの団体も私たちと同じ。私たちが、積み重ねてきたことを紐解きながら、それぞれの団体に合わせたカタチで伴走させていただいています。

「持続可能な社会」は、私たちだけで創れるものではなく、それを願う団体(組織)・個人がそれぞれにできることを引き受けていくことで、少しずつ実現していくものだと思います。これからも、いろんな人とともにミライを創っていきたく思います。(藤田)

おとなの森

会員さんが企画者となってコクレオを盛り上げる、もりラボ企画

コクレオの森は大きく4つの森(事業)がありますが、その中のひとつ「おとなの森」に「もりラボ」という事業があります。おとなの森は、「学びは子どものものだけじゃない。おとなも学ぼう。民主的に生きよう。対話を通じて学びを深めよう」というコンセプトで、子どもの学びを支えるおとなたちが学びを楽しむことを目的としています。

そんなおとなの森で行っている活動のひとつが「もりラボ」です。コクレオの会員さんならどなたでもイベント企画を提案することができ、運営委員会で承認された企画はコクレオの森のイベントとして実施されます。会員さんの、自分の中にある『やってみたい!』を発動させること。『伝えたい』『一緒に学びたい、楽しみたい』を実現すること。それがもりラボの目的です。自分が講師を務めてもいいし、外部講師を呼ぶこともできます。

最近では「PLAYFOOL WORKSHOP」という遊び心からイノベーションな発想を創造するワークショップや、こどもの森の子どもたちがことば共同の時間に行った哲学「なぜふとんから出られないのか」をおとな向けに開催したりしました。また、非暴力コミュニケーション(NVC)の講座は開催前から申込みが殺到し、急ぎょ2回目を企画するほどでした。これまでも映画上映会やコーヒー焙煎講座、ヒモトレ体験会、宇宙カフェなど、いろんな企画が生まれていて、教育以外の切り口からコクレオのことを知ってもらえるきっかけともなっています。

先日、永らく工事中だったもりラボのホームページが完成しました。企画の仕方や、参加者や企画者の声などが掲載されています。コクレオHPの「おとなの森」タブからご覧ください!(守安)



こそだての森

発見・つくるを楽しむ～森のアトリエ～

「森のアトリエ」は、「そら」より少し年齢が上がった小学生とその保護者対象のクラスとして、昨年1月にスタートしました。里山の四季折々の自然を体全体で感じながら“発見・つくるを楽しむ”をテーマに活動しています。里山の暮らしにある生活の知恵や仕事を体験、あるいは芸術に触れ、大人も子どももそれぞれの時間を楽しんでいます。活動場所は黒川公民館を中心に、知明湖キャンプ場、公民館から“ありなしの道”で結ばれる能勢や豊能の高代寺周辺など市町村を越え、またランチは周辺のお店からのデリバリー、活動や“食”を通して人と人との繋がりが生まれています。長年自然農をされている畑では、ふかふかの土を裸足で感じながらの収穫体験、宮大工さんにアドバイスをもらいながらの木工体験、里山に90年生活している方から教わる藁草履作り、ハチミツを搾った後の蜂の巣を分けてもらっての蜜蝋ろうそく

作り、グリーンウッドワーク、川横の古民家を借りての川遊びなど、里山の皆さんとのご縁と活動内容が合わさっています。昨年10月には公民館裏での“みんなで作るウッドデッキ”が始まり、「森のアトリエ」の参加者も一緒に活動しました。今年度最後の活動では、完成したウッドデッキで“ジャンベワークショップ”を行い、ほぼ満開のエドヒガン桜を背景にアフリカの里山にも触れました。“発見・つくる”は芸術の入り口…そんなことを感じながら、これからも人と人との繋がりを大切に、里山で遊びたいと思っています。(西川)



2021年度NPO法人コクレオの森通常総会のお知らせ

6月12日(土)14時から通常総会をコロナ感染防止のためオンラインで開きます。総会では、2020年度事業報告および決算案、2021年度事業計画および予算案などの審議を行います。なお、総会の案内状は4月末に、議案書は5月末にお送りする予定です。正会員の方は、ご出席のほどよろしくお願いいたします。(注)

『こどもの森のハッピーアドバイス』

「オンライン開催」
第2回 5/12(水)「まずは『聴く』から始めよう」
第3回 6/9(水)「わたしのすばらしさに気づこう！」
第4回 7/14(水)「わたしの本音の気づき方、伝え方」
時間：10時～12時 / 参加費：1500円 / 定員：12名
講師

守安あゆみ(認定子育てHATマイスター*/NPO法人コクレオの森副代表理事)
坂本田鶴子(認定子育てハッピーアドバイザー*/コーチ・カウンセラー)

*子育てハッピーアドバイスの著者である明橋大二医師が提唱する一般社団法人HATの認定資格
ファシリテーター：植木尚美(ことの美代表)

『親と子の土曜クラス そら in 里山』

(開催)月2回土曜日(8月は1回)
前期日程：5/1・15、6/5・19、7/3・17、8/21、9/4・16、10/2
(対象)満3歳～就学前の親子

《編集後記》

コロナ禍が続く中で春を迎えました。リモートワークやオンライン授業といった、一年前の時点では想像もしていなかったような暮らしが、今や当たり前になってきています。変化する社会の中でどう生きるか自問自答し、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。(足立)

『Manabee プログラム』

主体的で対話的な深い学び～幸せな学び場・学校へ～

【概要】<オンライン×リアル開催>
①全4講座
5/15(土)、6/19(土)、7/17(土)、8/7(土)
②共有プログラムづくりと実施
9/4(土)【オプション：当学園1日子ども体験】
③報告会と交流会
12/18(土)「学びの報告と飲んで語り合う時間」

【参加費】
<全日程コース>
一般 20,000円/学生 10,000円
<講座のみ参加の場合>
一般 3000円/各回/学生 1500円/各回

『森のアトリエ』

(開催)月1回土曜日
前期日程：5/29、6/26、7/24、8/21、9/25、10/23
(対象)小学生の親子 ※活動によっては中学生もご参加いただけます

発行日：2021年4月27日
発行者：認定NPO法人コクレオの森
〒562-0032
大阪府箕面市小野原西6-15-31
TEL&FAX: 072-735-7676
メール：info@cokreono-mori.com
URL: https://cokreono-mori.com/



第4号春季



コクレオてらす



写真：こどもの森 入学と進級を祝う会

問いを大切に、生き方を見直し続ける

佐野 純

春を迎え、今年もまた桜の季節が訪れました。箕面こどもの森学園の中学部は開設から6年がたち、1期生たちから大学進学のお知らせがいくつも届きました。また、大学進学をしなくても、自分なりの活動をしている様子を見聞きし、とても頼もしい思いがしています。

私は中学部の開設準備から関わり、中学生たちと一緒にたくさんのことを経験しました。小学部校舎の多目的室で始まった中学部が、新校舎での学習を始め、共同プロジェクトで、何もなかった一階に図書室を作りました。また、韓国・台湾・フィリピンで海外の学校と交流することにもチャレンジしました。「自分で考える学校でルールを“ルールだから”と考えずに守るのはおかしい」という子どもたちの意見から、ルールそのもののあり方を見直しました。この6年で、いろんなことを一から新しく作ったり、根本から見直したりしてきたように思います。

今求められているのは、その「一から新しく作ったり、根本から見直したり」することではないかと思っています。過去の人間の生き方の結果が今を作っています。そしてそれ

に無理があったことがいるんな出来事から感じられるようになっていきます。まず大人自身が生活習慣や普段使っているものを見直すことが大切ではないでしょうか。今のままを続けるのではなく、過去に戻すでもなく、これから新しく作っていくこと。

そのための第一歩は「自分自身を見つめること、感じること」ではないでしょうか。たとえまだ具体的な行動を起こしていなくても、事実を知って、それについてどう感じるかをしっかりとらえること。嬉しいことも辛いこともしっかりと感じる、それから「自分が何をしたいか」を考えて行動していくこと。それは中学部が掲げる“学ぶと生きるをデザインする”にもつながります。

「最初の人たちは問いを得て自由になった。2番目の人たちは答えを得て奴隷になった」
今、私が受けている講座で聞いた言葉です。常に自分にとって大事な問いを持ち続け、周りの人たちと協働しながら新しいものを作り続けていきます。